

考察－2

- EMIS活用について

- EMISでは、活動状況等の入力に施設により大きな差があり、活用度は決して高いとはいえなかった。後方支援の有無、インターネットに接続可能パソコン携行の有無により、活用度に差がある傾向が見られ、携帯からの入力項目の改善や、インターネット接続可能なPCの携行、院内後方支援は今後の課題の一つと考える。
- EMIS上に入力された携帯電話番号を含む隊員情報リストと、実際に参集した隊員情報とに相違がみられた。事前に更新されていれば、DMAT現地本部における受付作業軽減につながるものと考えられる。

まとめ

- ・ DMAT地方会での研修会として、参集訓練ならびに実働訓練、活動報告会を企画実施した。
- ・ 訓練には、21チーム85名の参加を得た。
- ・ 情報伝達とEMISを活用した参集訓練の問題点と課題が明らかになった。
- ・ 多くの訓練参加者は継続開催を希望した。

参考資料6 平成20年度DMAT中部訓練スタッフ資料

高山赤十字病院 白子隆志

1. スタッフ打ち合わせ 11:00 講堂他、昼食休憩（食堂）
2. 幹事会 第一会議室 13:00～13:50
3. DMAT中部地方会研修会 講堂
 - ① 事務局挨拶、幹事会報告 中川先生 14:00～14:15
 - ② 基調講演 森野先生 14:15～14:45
 - ③ 研修会説明 白子、岩間、北川 14:45～14:55
 - ④ 研修会 15:00～17:00 全体管理 白子
 - A. 現場トリアージ（講堂前） 25分 浮田、上條
 - B. 救護所トリアージ（講堂後） 25分 岩間、高野
 - C. 無線訓練（第一会議室） 25分 森野、小澤
 - D. 外傷処置訓練（小講堂） 25分 北川、吉田、高山救護班

移動・説明 各5分

4. 研修会次第

- 研修参加96名として24名4グループに分け、30分ごとにブースを移動（案内役、当院ボランティアなど）
- DMATインストは各ブースで指導

A. 現場におけるSTART法トリアージ

講堂前半分+入口付近

2班に分かれ、

スライドトリアージ組（スライド約25問）

実際のトリアージ組（傷病者約20名、トリアージタグ記入）

12分で交代

B. 現場救護所における傷病者の優先順位【2次トリアージ】

講堂後半分

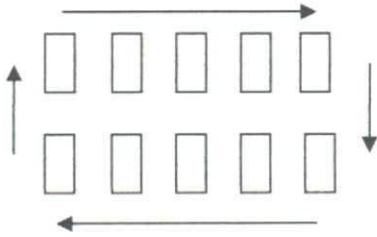
SORT（+診療）

傷病者役 10名（シナリオ） 救急隊員他（ムラージュは行わない）

医師・看護師2人一組の10組とする。（調整員は見学）

10名の傷病者を順番に傷病者のトリアージを行う（5分ずつ計4回）

2人で交代にトリアージ（医師は診療行為あり）する



必要物品：

仮設ベッド、輸液セット、聴診器、蘇生セット（BVM、気管挿管セット、胸腔ドレナージチューブ、超音波など）

C. 無線訓練

第一会議室（本部）

外科外来待合室（第一現場）

泌尿器外来待合室（第二現場）

内科外来待合室（第三現場）

検診センター前（第四現場）

➤ 5人チーム×4現場

2人が本部、救急隊員1名とDMAT隊員3人が現場へ

（1、2、3、4現場へ行きシナリオに沿って連絡）

ホワイトボードに記載し、報告書を作成、提出

シナリオ終了後本部に戻る

D. 外傷訓練

小講堂

2班に分かれ 2人一組で実習 12分で交代

➤ 三角布の使用

➤ 骨盤骨折シーツラッピング、サムスリング、頸椎カラー使用

5. 中部 DMAT 連絡協議会（仮称）設立準備会幹事会

平成 20 年 11 月 22 日（土） 13 時 00 分～

場所；高山赤十字病院診療等 3F 第一会議室

あいさつ

- 1 各県の DMAT 運用状況について
- 2 中部 DMAT 連絡協議会（仮称）設立について
- 3 その他

参考資料7

訓練進行表

○平成20年10月4日(土)

時間	内容	場所	備考
12:00 ~ 13:00	受付	消防学校入口	
13:00 ~ 13:50	全体説明・チャヒルディング・移動	消防学校2階大教室	
14:00 ~ 16:50	SCU設置運営訓練 CSM実働訓練	消防訓練施設C塔1階 倒壊建物等救助訓練施設	各訓練70分を予定
17:00 ~ 17:30	訓練講評	消防学校2階大教室	
17:30 ~	宿泊ホテルへ移動		
19:00 ~	意見交換会	活魚大関	

○平成20年10月5日(日)

時間	内容	場所	備考
9:30 ~ 12:00	災害医療に関する講演・講義 ・岩手宮城内陸地震に関して ・EMSについて ・9月1日広域医療搬送実働訓練の報告等	消防学校1階講堂	
	解散		

参考資料 8 第 4 回 四国地方 DMAT 連絡協議会 訓練報告

近森病院 井原 則之

平成 21 年 2 月 21 日（土）22 日（日）の 2 日間、高知県で第 4 回四国地方 DMAT 連絡協議会（以下 四国地方会）を開催した。この中で、拠点病院参集→病院支援活動（現場活動）→傷病者搬送→SCU 活動について、一連の流れとした訓練を行ったので報告する。

1. 四国地方会の経緯

東北地方での連絡協議会に次いで開かれるようになり、2007 年 9 月の第 1 回を皮切りとして過去に以下の開催を経ている。

第 1 回	2007 年 8 月	松山（愛媛県）	講義・通信訓練
第 2 回	2008 年 3 月	坂出（香川県）	参集・現場活動訓練
第 3 回	2008 年 9 月	徳島	SCU・CSM 訓練
第 4 回	2009 年 2 月	高知	

四国地方会は、発足当初から主催が各県の持ち回り制となっている。4 回の開催を経て、各県庁職員が積極的に関与するようになり、開催事務局や訓練参加をしている。

2. 高知における四国地方会訓練の概要

A) 参加者	161 名
DMAT	徳島赤十字病院 徳島県立中央病院 徳島県立海部病院 香川大学医学部附属病院 高松赤十字病院 回生病院 国立病院機構善通寺病院 愛媛県立中央病院 愛媛大学医学部附属病院 高知赤十字病院・日本赤十字社高知県支部 高知大学医学部附属病院 高知医療センター 近森病院 高知県立安芸病院 高知県立幡多けんみん病院

徳島県職員
香川県職員
愛媛県職員
高知県職員
高知県消防防災航空隊
香南市消防署
香美市消防本部
高知市消防局
南国市消防本部
高知市保健所

南愛媛病院	藤井 千穂
兵庫県災害医療センター	中山 伸一
日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター	近藤 久禎
東亜大学医療工学部	中田 敬司
厚生労働省医政局指導課 災害医療対策専門官	道上 幸彦 (敬称略)

B) 訓練テーマ

上記過去 3 回の開催を通じて、訓練テーマも工夫をこらされ、隊員個人の意識向上・技術向上に重要な役割を示すことが出来たと考えている。今回の高知での四国地方会訓練では、DMAT の組織活動に重点を置くことを前提として訓練計画を立てた。目標・目的が明確にされていないと参加者にとって効果的な訓練とはならないことから、以下のような訓練テーマを設定して訓練前に参加者へ配付し周知を図った。

訓練の目標・テーマ

- ・ DMAT現地本部の指揮下に、組織的な活動を行う。
- ・ DMATの活動の一つとして、被災地内病院支援を行うことを実践・理解する。
- ・ SCUにおいて、統括の指揮下での組織活動・役割分担を実践・理解する。
- ・ (現場活動において)消防との連携活動を実践・理解する。
- ・ (DMAT支援を受ける病院が)DMAT受け入れにあたり留意すべきこと、行うべきことを理解する。

C) 災害想定

09年2月21日午前6時00分

南海トラフを震源とした M7.5 の地震が発生し、高知市を中心に多くの人的被害がでた。高知県は、四国応援協定に基づき、香川県・徳島県・愛媛県に DMAT 派遣を含めた救援要請を行った。

D) 訓練全体でのルール

携帯電話は、メール・Web 接続が利用可能だが、音声通話は使用できないルールとした。固定電話・公衆電話・衛星電話は音声通話が使用可能とした。

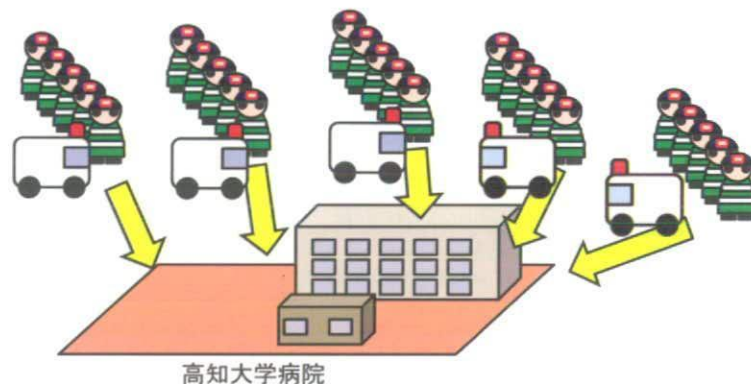
消防局の緊急車両は圧倒的な不足により、病院間搬送に利用できる可能性は低いものとした。

E) 訓練（高知大学病院サイト）

EMIS を通じて、午前 7 時に派遣要請が各隊員へ携帯メールで流れた。訓練上、参集時間のある程度の範囲内ではらつかせるため、参集拠点である高知大学病院への参集時刻は午前 11 時～午後 1 時とした。

高知大学病院に参集

- ・ 参集時間は午前11時～午後1時の間で。



高知大学病院では、同院 DMAT 隊員が統括 DMAT となって現地 DMAT 本部を立ち上げており、順次、参集した DMAT は、DMAT 現地本部に到着報告・メンバー登録を行った。現地 DMAT 本部は、DMAT 持参資器材のリスト化・移動手段（救急車か普通乗用車

か)・通信手段などの確認を行った。最終的に 12 チームの DMAT が参集した。

午後 12 時 30 分、政府により広域医療搬送が決定されたとの情報が高知県・DMAT 現地本部に入り、高知県に対して高知大学病院での SCU 設置が指示された。これと同時に、自衛隊機 CH-47 の飛行スケジュールも以下の通り決定した。

飛行スケジュール

午後 3 時 0 0 分に同地に CH-47①が高知に飛来。

午後 3 時 4 5 分に同地に CH-47②が高知に飛来。

午後 4 時 0 0 分に CH-47①が、福岡空港に向かって離陸する。

午後 4 時 3 0 分に CH-47②が、福岡空港に向かって離陸する。

統括 DMAT は、電話や EMIS を通じて各災害拠点病院の被災情報を収集し、参集した DMAT に対して、高知市内の病院支援および広域医療搬送を前提とした傷病者選定を指示した。

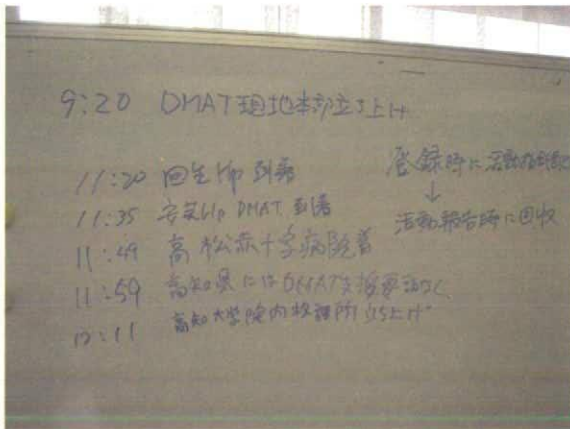
また、①各災害拠点病院の周辺にある医療施設の被災状況を調査、②DMAT 現地本部へ報告、③EMIS での各施設被災状況の代行入力、を統括 DMAT から各 DMAT へ指示した。

高知大学病院には、別室に高知県災害医療対策本部（県庁にあるものと仮定）、南国市消防指揮本部（南国市消防にあるものと仮定）、病院災害対策本部が設置され、統括 DMAT はこれらに加えて SCU 本部・拠点病院（×3 か所）・災害現場との情報通信・調整活動を行った。



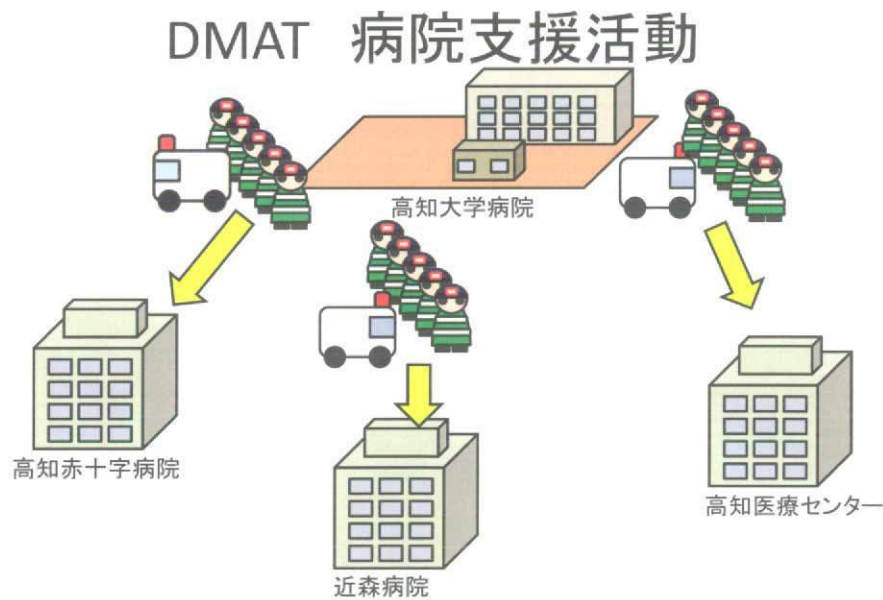
今回の訓練では高知大学病院の DMAT 隊員医師を統括 DMAT とした。同医師は DMAT の統括研修は未修了であったこともあり、本部運営にはとまどいと混乱が多少なりともあったことは否めない。しかし、統括としての意識向上があったことも確かであり、統括研修にも参加する予定である。

今回、大学病院職員には DMAT 隊員外からも多くの参加があった。今後、大学病院の全体的な意識向上が見込まれる。



病院からの電話での応援要請がなく（EMIS では多数傷病者がいるとの情報あり）、その結果、一部の病院への DMAT 派遣が遅れた。EMIS における医療機関からの情報収集をもとに被災状況を確認する意識づけが現地 DMAT 本部・県災害医療対策本部に必要である。

F) 訓練（高知医療センター・高知赤十字病院・近森病院各サイト）



各 DMAT はそれぞれ参集時の移動手段で、各病院へ移動した。各病院支援に出動した DMAT は、HeLP-SCREAM（アクションカードを利用）に沿って、病院での活動を行った。1病院につき、1～2 チームの DMAT が出動し活動した。

各病院では、独自に傷病者役や想定を課したが、以下のような活動を病院内での訓練として行った。

- ① 病院災害対策本部との連携・情報共有

- ② 模擬傷病者の診療と病院災害カルテへの記載
- ③ 広域搬送適応傷病者の選定
- ④ 災害カルテから広域医療搬送情報伝達用紙への転記
- ⑤ DMAT 現地本部への情報発信
- ⑥ 周辺医療施設の状況把握と EMIS 入力
- ⑦ SCU 本部との情報交換（傷病者搬送のタイミング調整）
- ⑧ 傷病者搬送
 - 病院支援 DMAT の移動手手段としての救急車両・各病院の救急車両・高知県消防ヘリ（航空機調整会議を経て、飛行プランができたものとした）を利用し、傷病者を SCU へ搬送した。
- ⑨ 経時的な活動記録

また、今回の訓練では、受け入れ側の病院対応についてもテーマにしており、病院側スタッフ（各病院所属の DMAT を含む）が、以下の事項について訓練を行った。

- ① EMIS への病院被災状況入力
- ② 現地 DMAT 本部への DMAT 応援要請
- ③ DMAT の受け入れ・案内
- ④ 災害対策本部長と DMAT の情報交換・活動調整



今回、傷病者診療よりも受け入れ病院と DMAT の連携・活動調整にポイントをおいた訓練となった。病院スタッフとの顔合わせに始まり、病院被災状況や傷病者状況を押さえた上での支援活動がどの病院でも出来たと思う。さらに、災害カルテから広域医療搬送情報伝達用紙への転記・周辺医療機関情報の収集など、これまで経験することがほとんどなかった事項まで踏み込んだ活動が出来た。各 DMAT の活動記録もできていた。

病院支援活動の DMAT が搬送にも携わった場合、チーム内メンバーが分割しなければならないことがある。そのような場合、以後の人材配置をどのように管理するのか、現地 DMAT 本部がどこまで把握できるのかについては今後の検討課題である。

病院支援活動DMATリーダー医師 部門： 災害拠点病院

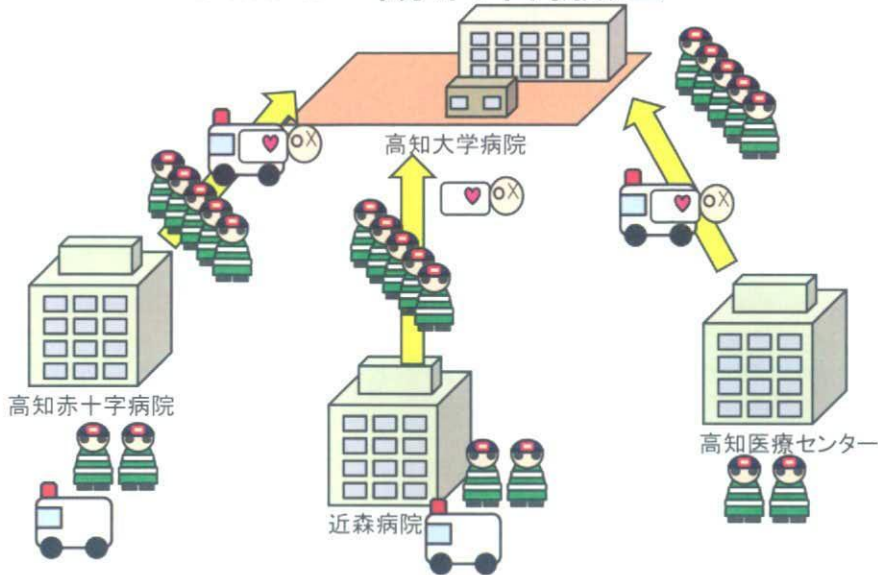
病院支援におけるDMAT活動

DMATの病院支援活動において、リーダーが行うべき事項 A) 病院到着・活動開始

- Hello:**
支援病院の担当者(カウンターパート)を確認し、挨拶する。
災害対策本部長 () }
病院長 () }
救急部長 () }
- Location:**
支援活動を行う場所を確認する。
- Location:**
待機場所を確認する。
DMAT現地本陣とのCommunicationが良好に行える場所へ。
- Location:**
トリアージ・応急処置・搬送の順を確認・設定を行う。
- Part:**
活動するDMATの人数を確認し、業務分担を振り分ける。
トリアージ担当 () }
搬送担当 赤 () 黄 () }
搬送担当 () }
- Safety:**
病院のハザード確認と安全確認を行う。
- Communication:**
DMAT現地本陣・周辺医療施設・SQU本陣との連絡手段を核対し確保する。
- Report:**
DMAT現地本陣へ、支援活動開始の報告を行う。
- Equipment:**
支援活動における使用機材を確認し確保する。
搬送手段の確保。
- Assessment:**
病院の搬患者状況・周辺医療施設状況などを評価する。
- METHANE:**
災害状況の評価を行うとともに、情報を発信する準備をする。
- 他の者が見て、リーダーと一目でわかるようにする。

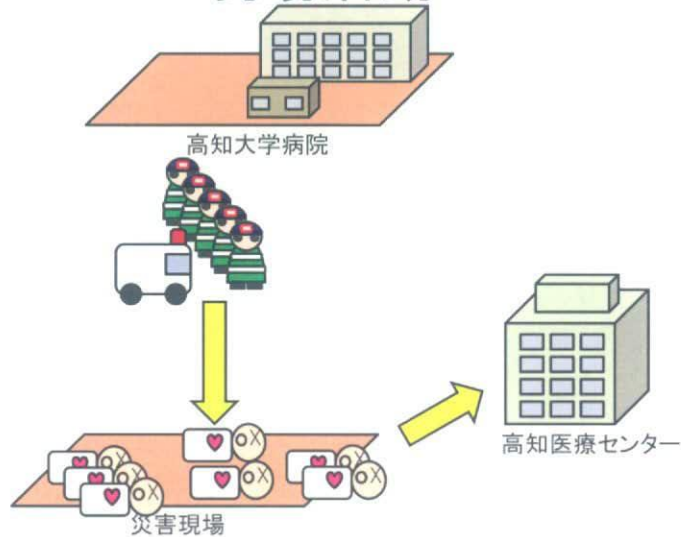


DMAT 傷病者搬送



G) 訓練 (災害現場サイト)

DMAT 現場活動



消防からの DMAT 連携活動参加への強いリクエストもあり、DMAT を災害現場へ派遣する訓練を行った。

乗用車 3 台・タンクローリー・マイクロバスの計 5 台が橋梁上で地震発生時に衝突事故を起こし、消防局から県災害医療対策本部を通じて現地 DMAT 本部へ DMAT の

派遣要請があり、1チームのDMAT3チームが現地に出動した。

消防局の指揮隊・ポンプ隊・救急隊・救助隊が活動しているところにDMATが到着し、消防と連携・情報交換を行いつつトリアージ・応急処置・搬送活動を行った。

DMATは傷病者へ対応するとともに、DMAT現地本部・搬送先医療機関との連絡調整を行い、高知医療センターに傷病者を搬送した。

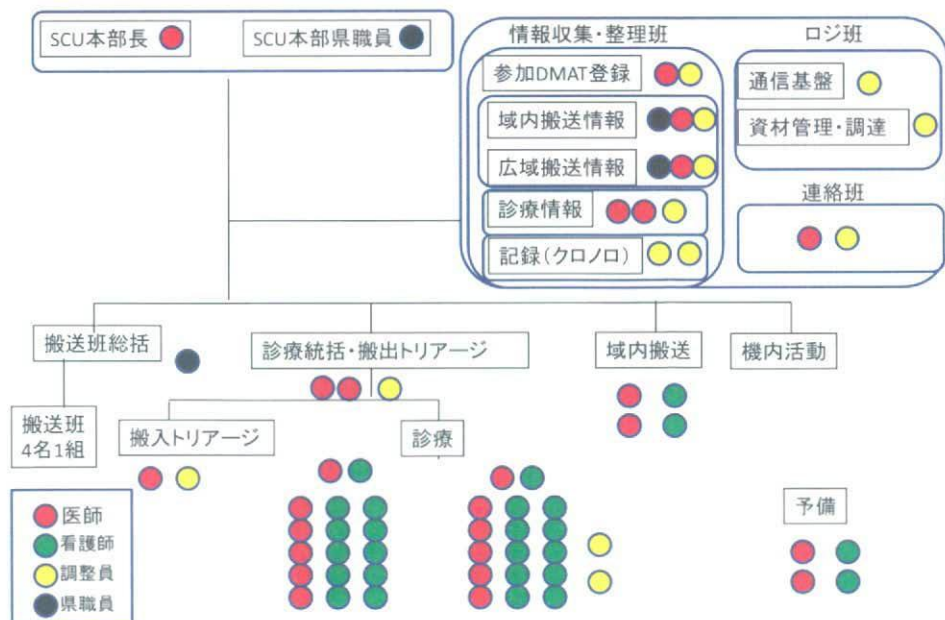


何よりも、消防側からこのような訓練に積極的に参加してくれることに感謝している。訓練想定においても、これまで何度となく消防とDMATの連携活動訓練をしてきた消防担当者のため、苦勞なく訓練目的とのすりあわせが出来た。

現場活動においては、各DMAT隊員もこれまで訓練を重ねてきており、消防との連携活動も出来ていた。DMAT独自に指揮板を持ち込み、傷病者情報の整理も出来ていた。

H) 訓練（高知大学病院 SCU サイト）

SCU組織図



南海地震発生時、高知県では広域搬送拠点が高知大学病院に設置される計画となっている。これを踏まえ、同地における SCU の実地訓練を行った。

現在、高知県で SCU 機材（ホワイトボード・机・担架・医療機材など）を整備する計画があり、実際に整備する前に「何が必要なのか」を確認する目的もあった。

高知大学病院構内、臨時ヘリポート横に武道館があり、これを SCU 利用するものとした。可能な限り現実的にするため、通常電力は使用せずに発電機を利用した。

SCU 立ち上げが広域医療搬送決定（12 時 30 分）と同時に決定されたものとし、高知県職員および DMAT3 チームが SCU 立ち上げを行った。

現行計画における SCU 組織図を元としたアクションカード施行版を使い、SCU 統括をはじめとする役割分担から開始した。組織図では 20 床の SCU において医師 24 人、看護師 24 人、調整員 13 人が必要となる。今回の訓練では、SCU 立ち上げを DMAT3 チーム（医師 4 名、看護師 8 人、調整員 5 人）＋県職員で行った。

組織を立ち上げ、自衛隊機飛行スケジュールを踏まえて、各病院と衛星電話で連絡をとり、傷病者受け入れを開始した。傷病者受け入れの決定権は SCU 統括にあるものとした。また、飛行スケジュールが決定してから各病院から傷病者を受け入れることとした。

傷病者は高知大学病院（ストレッチャーで 2 名）、高知医療センター（ヘリで 2 名）、高知赤十字病院（救急車で 2 名）、近森病院（救急車で 1 名）が搬入された。SCU における確認・安定化処置の後、搭乗者名簿を作成して CH-47 に搭乗する段階までを訓練した。

SCU統括

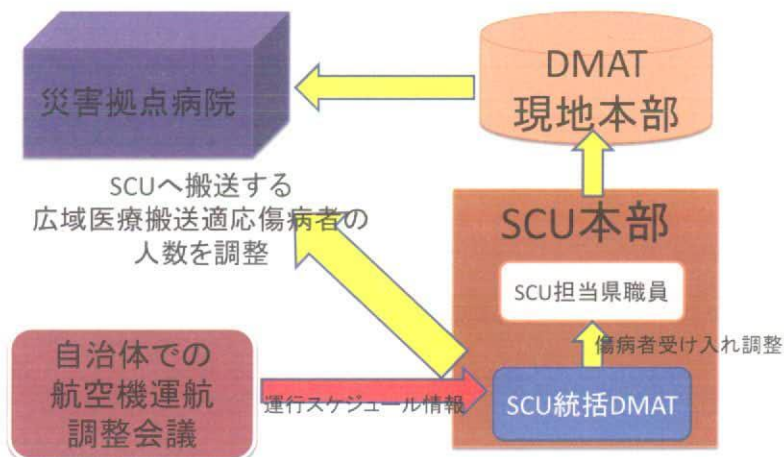
医師
部門： SCU本部

SCUにおけるDMAT業務すべての統括

A) SCUの立ち上げ

- Hello:
自治体および自衛隊ほか関係機関の担当者(カウンターパート)を確認し、挨拶する。
自治体担当者()
自衛隊担当者()
- Location:
SCUを展開する場所を確認する。
- Location:
SCU本部の設置場所を確認する。
自治体・自衛隊ほか関係機関とのCommunicationが良好に行える場所に。
- Part:
初期に参集したDMATの人数を確認し、業務分担を振り分ける。
- Part:
ロジ部門の統括者を任命し、ロジ部門の業務分担を委ねる。
- Safety:
安全確認
- Communication:
DMAT現地本部・周辺医療施設・周辺SCU本部との連絡手段を検討し確保する。
- Report:
DMAT現地本部へ、SCU立ち上げの報告を行う。
- Equipment:
SCU本部の使用機材を確認し確保する。
- Assessment:
被災状況・周辺医療施設状況・SCU立ち上げ状況(ベッドの展開数)などを評価する。
- METHANE:
災害状況の評価を行うとともに、情報を発信する準備をする。
- 他の者が見て、統括と一目でわかるようにする。
- 常に統括をサポートする医師・調整員を隣においておくべきである。

SCUにおける傷病者受け入れ調整



搭乗者名簿の作成はトラッキングシステムを利用した。SCU 立ち上げ時に調整員の担当者に入力方法を初めて指導したが、直感的に操作できたようであり、名簿作成も比較的スムーズであった。反面、医師・看護師が搭乗者名簿作成に直接関与できず、傷病名が曖昧であるなどの反省点が出た。

全体的にみて、立ち上げ当初の混乱も 30 分程度で落ち着き、活動できていた。医師・調整員が本部機能立ち上げにおいてマンパワー不足から混乱しがちであったのに対し、看護師は傷病者が来るまでの活動は資器材確認などが中心であるため余裕があった。看護師が本部機能立ち上げに積極的に関与する体制が望ましい。

SCU における通信機器は衛星電話 1 台と現地 DMAT 本部連絡用のトランシーバであった。当然のことながら、各病院との連絡はなかなかつながらなかった結果となった。SCU には複数の電話回線（衛星電話）が必須である。

I) 連絡会・反省会

上記の訓練は午後 4 時まで行われた。その後順次 DMAT は撤収作業に入り、現地 DMAT 本部に帰って撤収報告を行った。

その後、宿泊ホテルに移動し、活動報告を作成後、連絡会・懇親会を行った。

翌 22 日午前 9 時 30 分より、高知県立女子大学大講堂を利用して、活動報告会を行った。今回の訓練は 20km 圏内の 6 サイトに分散していたため、DMAT 相互にどのような活動を行っていたのかがわかりづらい訓練であった。これを解消するため、訓練時に各サイトで写真・ビデオ撮影を行い、これを元にサイト毎の活動報告を行った。

J) 座学

報告会に引き続いて座学として以下の内容の勉強会を行った。

1. EMIS の活用について

2. 被災地内病院支援

日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター 近藤久禎医師

3. 日本DMAT活動要領の見直しについて

厚生労働省医政局指導課 道上災害医療専門官

4. 四国 4 県での共通的なDMAT運用体制の構築

高知県医療薬務課

以上でプログラムの全日程を終了し、22 日午後 0 時に解散となった。

参考資料9 第一回中国地域DMAT連絡会次第

開催日；平成20年11月29日

場所；広島大学東千田キャンパス、共用施設B棟大講義室

14:00	開会のあいさつ	
	広島大学病院	谷川攻一
	厚生労働省医政局指導課	道上幸彦先生
	兵庫県災害医療センター	中山伸一先生
14:10	参加者紹介	
14:30	厚生労働省から	道上幸彦先生
15:30	休憩	
15:40	「DMAT運用戦略とEMIS」	日本医科大学 近藤久禎先生
16:30	質疑	
17:00	閉会のあいさつ	
	広島県健康福祉局	坂上隆士

連絡先

- ・広島県健康福祉局保健医療部医療政策課
担当者 木曾 正浩
電 話 082-513-3062 (ダイヤルイン)
e-mail fuiryou@pref.hiroshima.lg.jp
- ・広島大学病院高度救命救急センター
担当者 武田 卓
電 話 082-257-5588
e-mail takutaku@hiroshima-u.ac.jp

会場までのアクセス



<広島市中区東千田町 1-1-89>

□ 交通機関

交通機関	発地	行先	下車	所要時間
市内電車	広島駅／JR 山陽本線・山陽新幹線	紙屋町経由広島港（宇品）行（1番）	日赤病院前	約30分
市内電車	横川駅／JR 山陽本線	広電本社前行（7番）	日赤病院前	約40分
バス	西広島駅／JR 山陽本線	大学病院経由旭町	国泰寺2丁目下車 徒歩約10分	約30分

参考資料10 平成20年度 統括DMAT研修プログラム

2008. 6/25～6/26

月日	時間	プログラム	場所
1 日 目 6 月 25 日 ～ 水 ～	10:00 ～ 10:10 10分	オリエンテーション	災害医療センター
	10:10 ～ 10:30 20分	開会式 開会挨拶 ※ 独立行政法人国立病院機構災害医療センター 院長 林 茂樹 ※ 独立行政法人国立病院機構災害医療センター 名誉院長 辺見 弘 ※ 厚生労働省 医政局指導課 道上 幸彦	外来棟4階 研修室
	10:30 ～ 11:00 30分	講義 1「統括DMAT登録者とその活動」 ※ 担当：山形県立救命救急センター 森野 一真	
	11:00 ～ 11:20 20分	講義 2「災害医療組織の指揮調整のあり方」 ※ 担当：東京医科歯科大学大学院 大友 康裕	
	11:20 ～ 11:50 30分	講義 3「ApathyとNetwork Centric Operation」 ※ 担当：防衛医科大学校 防衛医学講座 山田 憲彦	
	11:50 ～ 12:10 20分	講義 4「医療と消防との連携」 ※ 担当：日本医科大学高度救命救急センター 近藤 久禎	
	12:10 ～ 13:00 50分	昼食	
	13:00 ～ 13:20 20分	講義 5「組織論」 ※ 担当：東亜大学医療工学部 中田 敬司	
	13:20 ～ 13:40 20分	講義 6「DMAT運用戦略」 ※ 担当：日本医科大学高度救命救急センター 近藤 久禎	
	13:40 ～ 14:00 20分	講義 7「情報伝達手段」 ※ 担当：武蔵野赤十字病院 高桑 大介 / 国際緊急援助隊事務局 市原 正行	
	14:00 ～ 14:10 10分	休憩	
	14:10 ～ 15:10 60分	グループ1：講義 8-1「近隣災害（机上シミュレーション）」 ※ 担当：国立病院機構災害医療センター 井上 潤一（北川・大友・中島・中山） グループ2：講義 9-1「実習：EMIS訓練」 ※ 担当：日本医科大学高度救命救急センター 近藤 久禎	看護学校2階 2-3教室 看護学校2階 体育館 外来棟4階 研修室
	15:10 ～ 15:20 10分	休憩	
	15:20 ～ 16:20 60分	グループ2：講義 8-2「近隣災害（机上シミュレーション）」 グループ1：講義 9-2「実習：EMIS訓練」	
	16:20 ～ 16:30 10分	休憩	
	16:30 ～ 17:10 40分	講義 9-1「事例検討：拠点病院本部」 ※ 担当：新潟市民病院 熊谷 謙 講義 9-2「事例検討：SCU」 ※ 担当：山形県立救命救急センター 森野 一真 講義 9-3「事例検討：現場」 ※ 担当：名古屋掖済会病院 北川 喜己	外来棟4階 研修室
	17:10 ～ 17:30 20分	講義 10「災害時におけるドクターヘリ活用」 ※ 担当：日本医科大学千葉北総病院 松本 尚	
	17:30 ～ 17:40 10分	休憩	
	17:40 ～ 18:00 20分	講義 11「マスコミ対応」 ※ 担当：国際協力機構 国際緊急援助隊事務局 市原 正行 / 大友 仁	
	18:00 ～ 18:20 20分	講義 12「厚労省の対応」 ※ 担当：厚生労働省医政局指導課 道上 幸彦	
	18:20 ～ 18:30 10分	質疑応答 / 講評 / 事務連絡	

参考資料10 平成20年度 統括DMAT研修プログラム

2008. 6/25～6/26

月日	時 間	プ ロ グ ラ ム	場 所
第 2 日 目 6 月 26 日 (木)	8:30 ~ 9:00 30分	講義 14「関係機関の災害医療体制」 ※ 担当：山形県健康福祉部健康福祉企画課 大類 真嗣	外来棟4階 研修室
	9:00 ~ 10:50 110分	講義 15「遠隔地・病院机上シュミレーション／演習の説明」 ※ 担当：国立病院機構災害医療センター 本間 正人 / 日本医科大学 近藤 久禎	
	10:50 ~ 11:00 10分	休憩・設営	
	11:00 ~ 12:00 60分	講義 17-1「遠隔地・病院演習」 (1ブース 30分) ① 災害現場 ※ 担当：名古屋掖済会病院 北川 喜己 (大友・中島) ② 被災地内病院 ※ 担当：武蔵野赤十字病院 勝見 敦 (内藤・富岡) ③ DMAT現地本部 (災害拠点病院) I ※ 担当：新潟市民病院 熊谷 謙 (松本・関・(森野)) ④ DMAT現地本部 (災害拠点病院) II ※ 担当：東北大学病院 山内 聡 (畑・井) ⑤ 自治体災害 (医療) 対策本部 ※ 担当：藤沢市民病院 阿南 英明 (田代・大類・近藤) ⑥ 被災地外拠点 (参集・受け入れ) ※ 担当：兵庫県災害医療センター 中山 伸一 (小井土・丹野・楠) ⑦ SCU DMAT本部 I ※ 担当：近森病院 井原 則之 (中川・中野) ⑧ SCU DMAT本部 II ※ 担当：相澤病院 岩間 直 (布施・白子)	本館4階第2会議室西 本館4階第2会議室東 外来棟4階研修室ステージ 外来棟4階研修室ステージ東 外来棟4階研修室東北入口 外来棟4階研修室前 外来棟4階研修室東南窓 外来棟4階研修室中南窓
	12:00 ~ 12:50 50分	昼食	
	12:50 ~ 14:20 90分	講義 17-2「遠隔地・病院演習」 (1ブース 30分)	
	14:20 ~ 14:30 10分	休憩	
	14:30 ~ 16:00 90分	講義 17-3「遠隔地・病院演習」 (1ブース 30分)	
	16:00 ~ 16:10 10分	休憩	
	16:10 ~ 16:30 20分	講義 19「統括DMATの平時の役割」 ※ 担当：山形県立救命救急センター 森野 一真	外来棟4階 研修室
	16:30 ~ 16:50 20分	質疑応答 / 講評 / 事務連絡 国立病院機構災害医療センター 本間 正人	
	16:50 ~ 17:00 10分	閉会式	